

## チリ政治情勢報告（４月）

平成２９年５月

### 1. 概要

（１）内政では、与党会派「新多数派」のラゴス元大統領が大統領選挙への立候補辞退を表明し、ゴイック上院議員（キリスト教民主党（DC）党首）は「新多数派」の予備選挙に参加せず、１１月の大統領選挙に直接出馬することを決定した。また野党会派「Chile Vamos」はピニエラ前大統領を含む３名による予備選挙が行われることが決定した。

（２）外交では、ムニョス外相がアルゼンチンにおいて太平洋同盟・メルコスール閣僚会合に出席した。

（３）５月１日発表のAdimark GfK社調査による４月のバチェレ大統領の支持率は２８％（前回比＋３ポイント）、不支持率は６９％（前回比－２ポイント）であった。

### 2. 内政

#### 次期大統領選挙に向けた与野党各会派の動き

##### ア 与党会派「新多数派（Nueva Mayoría）」

##### （ア）ラゴス元大統領による次期大統領選挙への立候補辞退

９日、社会党（PS）の中央委員会の投票により、次期大統領選挙に向けてPSとしてラゴス元大統領ではなくギジェル上院議員を支持する決定が行われた。これは、PSからの大統領選挙立候補を表明していた二名（インスルサ元OAS事務総長及びアトリア弁護士）がいずれも立候補を辞退したことを受け、自党の候補者がいなくなったため、PSとして「ギ」上院議員あるいは「ラ」元大統領のいずれを支持するか決定するために党中央委員により行われた秘密投票。その結果、PSが「ギ」上院議員を支持することを決定したことを受け、１０日、「ラ」元大統領は大統領選挙への立候補辞退を決定した。辞退の理由について「ラ」元大統領は、これまで「ラ」元大統領の支持母体であったPSの同意を得ることができない中で国政を統治することは困難であると判断したこと等を挙げた。

##### （イ）ゴイック・キリスト教民主党党首による大統領選挙予備選挙不参加の決定

４月２９日、与党会派「新多数派」のキリスト教民主党（DC）全国党大会が開催され、大統領選挙への立候補を表明しているゴイック党首（上院議員）が７月２日の予備選挙に参加せず、１１月１９日の大統領選挙に直接出馬するこ

とが決定された（党大会への出席者800名強の当方の結果、約63%が「ゴ」党首による予備選挙への不参加及び大統領選挙への直接出馬を支持）。DCによる右決定を受け、「新多数派」内では予備選挙が実施されないこととなった。ギジェル上院議員は、「新多数派」でなく無所属として大統領選挙に立候補するために必要な3万3493人分の署名集めを開始。なおDCは上下両院議員選挙においては、「新多数派」の他政党と協力することを希望したが、民主主義のための党（PPD）、社会党（PS）、急進社会民主党（PRSD）らの党首は、大統領選予備選挙に参加しないこと（分裂選挙）を決定したDCと議員選挙で協力することに難色を示しており、議員選挙でも「新多数派」とDCは協力しない方向。

#### イ 野党会派「Chile Vamos」

2日、野党会派「Chile Vamos」のピニエラ前大統領（国民革新党：RN）、オサンドン上院議員（無所属）、フェリペ・カスト下院議員（Evopoli:政治発展党）が予備選挙に向けての立候補登録を行った。これにより、野党側は予備選挙実施が確定した。

#### ウ 野党会派「拡大前線（Frente Amplio）」

3日、野党会派「拡大前線」のサンチェス氏（無所属、ジャーナリスト）及びマジョール氏（無所属、社会学者）の2名が予備選挙への立候補登録を行った（「拡大前線」は学生運動の元リーダーであるジャクソン下院議員（民主革命党（RD））及びボリック下院議員（無所属）らが中心となって結成された野党左派グループで、より急進的な立場をとる小政党や政治運動組織など12のグループから構成）。したがって、7月2日は野党右派の「Chile Vamos」及び野党左派の「拡大前線」で予備選挙が実施される。

### **3. 外交**

#### （1）チリ要人の外国訪問

##### ア ムニョス外相のアルゼンチンにおける太平洋同盟・メルコスール閣僚会合出席

7日、メルコスールと太平洋同盟の外務、貿易及び生産大臣は、ブエノスアイレスに於いて会合を持ち、両地域経済統合における共通関心分野の取り組みの検討など、各プロセスの進展を確認した。参加閣僚は、国際情勢に関して意見交換し、また、自由貿易及び地域統合に向けた努力を強化することで現状の課題に取り組むことの重要性に合意した。そうした観点から、メルコスールと太平洋同盟の歩み寄りに向けた作業を継続することに合意し、また、貿易円滑化、

税関協力，貿易促進，中小企業支援，地域バリューチェーンの可能性確認などの作業を行う枠組みづくりを検討した。

#### イ リベロス外務次官の中国訪問

21日，リベロス外務次官は中国を訪問し，王超（WANG Chao）中国外交部副部長と共に第1回常設二国間委員会を開催した（シュネーク鉱業次官，ラミレス通信次官等が同席。同委員会は，2013年APECバリ首脳会合の際に両国外務大臣による覚書に基づいて設置）。両国の戦略連携に基づき，長期的関係の更なる推進及び強化を諮るもので，二国間協力や政治，経済，科学技術，文化，教育分野での協議をとおして二国間関係を促進・強化することが目指されている。

### （2）外国要人のチリ訪問

#### ア バレーラ・パナマ大統領のチリ訪問

25日，バレーラ・パナマ大統領がチリを訪問し，バチェレ大統領との首脳会談を行った。両大統領は，貿易，インフラ，移民，ラ米及びカリブ地域に関わるテーマにつき協議した。その後の合意文書署名式では，移民及び領事協力に関する覚書に署名した。また，農業分野での技術促進に向けた共同の取り組みを強化するため，農牧分野に関する覚書にも署名された。

#### イ ヌネス・ブラジル外相のチリ訪問

11日，ムニョス外相は，チリを公式訪問中のヌネス・ブラジル外相と会談した。同会談において「ム」外相は，本年1月下旬に発生したチリにおける森林火災に対するブラジルからの支援に謝意を表明したほか，本年下半期に両国の外務大臣及び国防大臣による2+2会合を実施することに合意された。また両外相は，ブラジル，パラグアイ，アルゼンチン，チリの4カ国をつなぐ道路建設計画を引き続き検討していくことに合意したほか，ベネズエラ情勢に対する懸念等を共有した。一方「ヌ」伯外相は，メルコスールと太平洋同盟の関係強化に対するブラジルの関心を強調した。

### （3）駐ベネズエラ・チリ大使公邸におけるエンリケス・ベネズエラ・キリスト教社会党党首の保護

5日，ベネズエラのロベルト・エンリケス・キリスト教社会党（COPEI）党首（米州キリスト教民主主義機構（ODCA）副理事）が駐ベネズエラ・チリ大使公邸に入り，同党首は「滞在客」としての身分を与えられ公邸で保護された。これは3日，ラトレODCA理事（チリ人で元下院議員）がベネズエラ

の状況についてリベロス外務次官、その後ムニョス外相と協議し、「エ」COPEI 党首がベネズエラで反乱を扇動した疑いで逮捕状が発出されており、身の危険にさらされているとの報告がなされたことを受けて、在ベネズエラ・チリ大使館に保護を求めたいとする「エ」COPEI 党首の要望にチリ外務省が応えたもの。駐ベネズエラ・チリ大使公邸における「滞在客」としての身分があれば、「エ」COPEI 党首は無期限に公邸に滞在でき、ベネズエラ当局は公邸に許可なく立ち入ることはできない。